

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

## イオンプロダクトファイナンス株式会社（証券コード：ー）

### 【据置】

長期発行体格付	A-
格付の見通し	安定的
債券格付	A-
国内CP格付	J-1

### ■格付事由

- イオンフィナンシャルサービス（AFS、長期発行体格付：A）の連結子会社。AFSグループの中で車両および住空間関係を中心に個品割賦を取り扱う会社として位置付けられている。格付には、AFSグループと資本や資金調達面での結びつきが強く、有形無形のサポートが期待できることから、グループの信用力を反映している。営業面におけるイオングループとのシナジー効果およびAFSグループへの収益寄与を高める必要はあるものの、底堅い利益計上によりAFSグループに貢献している。
- 車両関係は加盟店開発の減少、住空間関係では太陽光ローンの減少などから、近年の取扱高は伸び悩んでいる。21/2期はコロナ禍の影響を受け、車両、住空間関係とも取扱高は減少している。一方、イオンチャンネルからの直接的な取扱高はまだ小さく中長期的な課題であるが、イオンモール内等で取り扱うペットやデンタル等のローンを推進しており、わずかながら取扱高は増えつつある。経常利益は流動化債権売却益の底上げが寄与し増益が続いてきたが、21/2期は売却益の減少を受け下押しされている。営業債権残高の増加が続いているなか、債権売却益を除いた営業収益は増加傾向にある。注力している新商品や大手加盟店開発などに成果が出始めているほか、デジタル化による生産性向上や業務効率化も徐々に進捗しており、取扱高を回復し債権売却益を除いた利益水準を改善していけるか注目している。
- 資産の健全性は高い。延滞債権額は一時やや増加していたが足元では減少しており、延滞債権比率は低位である。貸倒関連費用は増えているが引当率の影響であり、貸倒償却額は低水準で推移している。コロナ禍による与信面への影響は今のところ見られないが、今後も注意していく。20年8月末の自己資本比率は7%と、内部留保の蓄積のほか、債権流動化に伴って改善傾向にある。資金調達は、債権流動化が中心である。CPによる直接調達も行っている。グループの国内調達をAFSに一元化していることから、間接調達はAFSからの借入が大半である。AFSからは十分な調達枠を与えられているほか、地銀を中心とする金融機関の調達枠も確保しており、流動性に懸念はない。

（担当）大山 肇・阪口 健吾

### ■格付対象

発行体：イオンプロダクトファイナンス株式会社

### 【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	A-	安定的

対象	発行額	発行日	償還期日	利率	格付
第1回無担保社債（適格機関投資家限定）	50億円	2018年4月26日	2023年4月26日	0.380%	A-
第2回無担保社債（社債間限定同順位特約付・適格機関投資家限定分付分割制限少数人数私募）	50億円	2018年10月25日	2023年10月25日	0.400%	A-

対象	発行限度額	格付
コマーシャルペーパー	800億円	J-1

## 格付提供方針に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2021年2月19日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：松村 省三  
主任格付アナリスト：大山 肇
3. 評価の前提・等級基準：  
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」(2014年1月6日)として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：  
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」(2014年11月7日)、「信販・クレジットカード」(2013年7月1日)、「親子関係にある子会社の格付け」(2007年12月14日)として掲載している。
5. 格付関係者：  
(発行体・債務者等) イオンプロダクトファイナンス株式会社
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：  
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度をもって示すものである。  
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。  
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：  
・格付関係者が提供した監査済財務諸表  
・格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：  
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

### ■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果的正確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいて行っております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

### ■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

### ■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL：03-3544-7013 FAX：03-3544-7026

**株式会社 日本格付研究所**

Japan Credit Rating Agency, Ltd.

信用格付業者 金融庁長官(格付)第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル